

## 中国留学を通して得たもの

国際文化学科 2年 石田真依子

私が留学に行こうと思ったきっかけは、漠然と大学 4 年間で学ぶ中国語を話し使えるようになりたいという気持ちでした。また、ニュースなどで報道されている中国はマイナスなことばかりで、本当の中国はどうだろうと想着いて、私は自分の目で見て体験したいと想着っていた。日本を出て他の国で生活をし、客観的な視点で日本を見てみるとどう感じるのだろうか、そして他の国と比べるとどのような違いがあるのだろうかという疑問を持っていた。中国に留学するということに、少しの不安とそれ以上の好奇心が私の中にあり、充実した 4 か月を過ごしたいと想着え、それを実行できるよう留学期間中は行動した。

2015 年 8 月 30 日に出発し、留学先の北京師範大学に到着できるまでがとても長かった。私は、留学に多額の現金を持ち歩きたくなく少しの元と日本円、クレジットカードを持って行こうと想着ていた。しかし、私の準備不足で 8 月 30 日の出発当日カードにお金をチャージしても使えなという状況になった。新幹線には乗り遅れ、成田空港の待ち合わせ時間に間に合うかどうかという時間までになった。クレジットカード二枚を持って行く予定だったことから、一枚なくとも私は大丈夫と思ひ結局現金は持たなかった。後に、その一枚のクレジットカードも使えるが現金は引き下ろすことができなかつたため、留学先の中国で日本の金融機関に電話をして忙しかつた。留学にいこうと想着ている人は、現金を持って行くのかクレジットカードを持って行くのかよく想着え、もしクレジットカードを持って行くのであれば使えるかどうか早めに確認したほうがいい。そして、成田空港に到着し出国だと思っていたら、飛行機が遅れ約 5 時間待つことになる。私は最初から困難が多く留学生活は大丈夫なのかと不安になつた。北京に着き、空港を出ると霧がかつているようで驚いた。これがニュースで見る、PM2.5 なのかと分かり中国人はこの環境で毎日生活しているかと思つた。



始めの一か月は長く毎日が大変だつた。買い物をするにも、食べたいものがあつても話すことができなかつて困つた。日本語だつたら、すぐ言えることでも中国語で話すことができなかつ何をするのにも一苦労。そして、私は初めて親元を離れ生活し、それまで親に頼っていた洗濯や様々なことも自分一人でしなかつてはいけなかつた状況が辛かつた。何もかも親任せにし、何もしなかつた付けが回つたと感じた。授業が始まる前に、

クラス分けのテストが行われた。筆記、リスニング、スピーキングの 3 つがあり、リスニングとスピーキングは聞き取れなかつ何をしてるのか全くわからなかつた。授業が始まり、自己紹介のときですら先生やクラスメートに聞き取ってもらえなかつ、ゆっくり話すことで分

かってもらえた。授業では、主に読解、会話、リスニングの3つ。どの授業でも毎日必ず質問をされた、しかし何を質問されているか理解できても、中国語で話すことができなく「分からない」と言うしかなかった。先生からしたら、質問内容が分からないのかと思われ最初から教えてくれるが、質問に対して答えられないと分かると質問を分かりやすくしてくれ、ヒントを与えてくれた。分からないところの復習や予習を毎日続けることで、1か月程すると何となく聞き取れ意味が分かるようになった。また、仲良くなった中国人の方に授業の分からないところ、私の発音が悪く聞き取ってもらえない単語の発音を直してもらった。発音を直したことで、会話の授業でのスピーチ内容を、クラスメートに分からないところもあったと思うが理解してもらえるようになった。

11月にあった留学生の語学学習旅行で四川省に行ったことは、私にとってかけがえのない思い出の一つになった。北京から四川省までは、寝台列車で片道24時間程度。約1週間の旅行だった。列車の中では、私の周りには日本人がいなく様々な国の人がいた。私は、韓国人の女の人と話をしたり、アメリカの方が前日本に留学に来ていたときの話を聞いたりした。その全ての会話は中国語で、おはようからお休みまで中国語の生活は辛くもあったが分からないことは英語で話し、私が聞き取れなかったらゆっくり中国語で話してくれた。話したいことを中国語にしなくてはという思いが、四川にいる間は中国語を話す機会が多いことで、中国語の上達に繋がった。韓国人の方とは、政治に関する話をしてお互いの国の政治の分からない点について話した。私は、辞書片手に話をしたが韓国と日本の政治、選挙方法、そして日本はなぜ安倍を解任できないのとはすごく聞いてきた。そして、これからの中国について、また国慶節の軍事パレードを見たことについて話してくれました。私は、留学に行く前に事前学習として中国に関することを学んでから行きましたが、彼女の話聞くなかで歴史を知ること大事だが歴史を知り、その上で今後どのようなようになるか、またどうなりたいかという自分自身の考えを持つことも大事なことだと気づかされました。四川旅行に行く前の私は、引っ込み思案で自分から話しかけたりすることが出来なく、話しかけることにすごい勇気がいり話しかけるまでに緊張していたのですが、自分から会話を続けるにはと考え、質問をして少しでも長く会話をしたいと思うようになりました。



休日には、北京市内を観光し中華料理を食べた。中国の交通状況に最初はとても驚くことがたくさんあった。車のクラクションはよく鳴り赤信号で止まらないことも多い、歩行

者もまた赤信号を守らない場面を見ました。北京では、地下鉄、バス、タクシーなどの交通機関は安く、地下鉄は 80 円くらいで行ける。物価は、日本よりも安く感じるがちょっと高いなと感じるものも多かった。例えば、食事は大学の食堂だと一食 200 円あれば食べることができる。しかし、大学を出て食べに行く場合は日本と変わらないか少し高いくらい。料理は、油を多く使っていて口に合うものと合わないがあった。大学の食堂では様々な料理に挑戦した。しかし、中国語の料理名が日本の漢字そのままで読むと恐ろしい、想像も出来ないような料理名が多く、最初は戸惑うことも多かった。パクチーが入っているもの、唐辛子が大量に入っていて辛い料理などが多く、その中から口に合う料理を見つけるのが楽しみでした。服や雑貨は、値引くことができるが値引かないと妥当な値段で買えないので注意が必要だった。書いてある価格や店員の言い値の三分の一が正しい値段と授業で師範大の先生が教えてくれたが、半分かそれ以下にするのが精いっぱい三分の一の値段にするのはとても難しかった。中国での買い物は、ぼられることが多いので適正価格を知ることが大事だ。

中国と日本の文化の違いはたくさんある。日本にしかないものもあれば、中国にしかないものもある。特に、人間関係や中国人の価値観の違いは大きいと感じた。日本では他人との間に距離がある、しかし中国では他人と距離が近い。日本では、空気を読むや阿吽の呼吸、相手の気持ちを察するというような言葉が存在する。中国に来るとこれは通じない、自分の意思を相手に伝えなくては何も出来ないし言葉を濁すことも出来ない。これは、一つの文化の違いを実感するとともに日本も見直すところでもあるのかなと思った。そのため、日本人と話すときには言葉の内容の裏を読まなくてはいけませんが、中国人と話すときには気にしないでいい。話すことの内容が真っ直ぐにくるため関わりやすいなと感じた。

休日にお出かけしたことで、私はとても良い方に逢いました。私と留学メンバーの 1 人でショッピングセンターに行き買い物をして、その後のご飯屋さんでの出来事でした。店内は、仕切りがなく座席はファミレスみたいな感じで、私が奥に座ろうとテーブルの脇を通ろうとしたときに隣に座っていた中国人の方に日本人だと知られ舌打ちされ睨まれました。一緒に行った子はそのことに気づかなかったのですが、私は怖くなり食事中に話をしませんでした。すると、私を挟んで隣に新しく座った方が突然話しかけてきました。「日本人の方ですか」と日本語で聞かれ、「そうです」と答えると日本語を中学から大学生まで勉強していてと話しかけてくれました。私たち 2 人より 10 歳年上中国人のお姉さんで、最初はちょっと警戒していたのですが、日本人にあっても普段は話しかけないけど今回が初めてなのとすごく必死になって、大学を卒業してから話すことがなくなった日本語を思い出しながら一生懸命に話してくれました。中学や大学の話、働いている会社の名刺までだして説明してくれ、困ったことがあったら何でも電話してと言ってくれました。私の隣を挟んで、日本が嫌いな人もいれば日本を良く思ってくれる人もいることに身をもって体験しました。その後、仲良くなった刘さんとはお出かけしたり、一緒に料理教室に行き、中国に関して生活しているからこそ分かること教えてくれたり、中国の文化や歴史を学びました。日本に帰国

前の最後に会った日は、仕事も忙しく風邪をひいていたけど会ってくれて本当に嬉しかったです。些細なことでも心配してくれ、気を使ってくれて、妹みたいに思ってくれて本当に刘さんと出会えたことは、私の留学での宝だと思います。

中国で4か月生活して、留学する前の私の中国に対するイメージはマイナスから始まった。しかし、留学する中で私の中の中国に対するイメージは日ごとに少しずつ良くなった。中国に来てみると、私自身が日本のメディアにすごく影響を受けていたと感じる、そして中国の悪い面しか知らないということは、自分の考えが偏ったものにしかならないと思った。日本で中国に関する報道は事実ではあるが、日本での報道が全てではない。報道されている事実の少しの部分である。私が係わった中国人の方はみんな良い方ばかりで、とても気さくな人たちであった。私が一人で道に迷ったとき、人に聞けば親切に教えてくれる、話せないと分かるジェスチャーしてくれ、分かるまで教えてくれた。人と人の関わりは、政治や歴史は関係ないと感じる。

留学を終えて、私の語学力は上がった。また、行動力や積極性が身についた。自分から話しかけることができるようになり、中国語を聞きとってもらえるかの心配や言い間違えをしたとしても、次に失敗しなればいいと、失敗を恐れず気楽な気持ちに心境が変化した。これも全て、一緒に勉強してくれ支えてくれた友達のおかげです。ホームシックになることはなかったが、日本食特に味噌汁が美味しいと感じなくなったことを、ルームメイトの子と本気で悩んだこともあった。約4か月という期間は、長いようであつという間で、学んだことも多く教えられたことも多かった。そして、得たものも多い。日本では、学ぶことができないことを経験した。これから、私が経験したことや中国で良くしてもらえて嬉しかったことを返せるようになりたいと思う。

|

